

## 平成29年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：平成29年7月9日（日） 午後2時00分～4時00分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 5人出席

委員長 萩原 司

副委員長 小島 道裕

委員 広田 直行

委員 鈴木 一彦

委員 柳谷 昌代

（事務局）

丸島館長、小川副館長、白根主査、学芸担当

### 4 議 題

（1）「千葉市立郷土博物館のあり方（中間報告）」（案）

（2）委員からの提言

（3）その他

### 5 議事概要及び議事結果

#### 3 議 題

（1）「千葉市立郷土博物館のあり方（中間報告）」（案） 【資料1】

事務局から委員に対して、資料1「千葉市立郷土博物館のあり方（中間報告）」の内容を説明した。当該資料については、委員から出された意見等に基づき、事務局が内容を修正した後、委員に確認を依頼することとなった。

（2）委員からの提言

鈴木委員から「博物館経営論に基づくこれからの博物館のあり方」をテーマにした提言を受けた。

（3）その他

次の開催日程について、平成30年1月頃に協議会を開催することを前提として、それ以前に協議会を開催できるかどうかは館内で調整後、委員に連絡することとした。

### 6 会議経過

小川副館長の司会進行により、初参加となる丸島館長及び柳谷委員の紹介及び挨拶を行った。

その後、会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していることを告げた。また、千葉市情報公開条例25条に基づき会議を公開していることを告げ、以後、萩原委員長を議長として、会議が進行した。

### 議事（1）千葉市立郷土博物館のあり方（中間報告）について

< 説 明 >

白根主査が資料1「千葉市立郷土博物館のあり方（中間報告）」の内容を説明した。

< 質疑応答等 >

- 萩原委員長 事務局の説明についてご意見等があればお願いしたい。  
報告の最初にある「立郷土博物館の現状と課題」は、これまで協議した内容をまとめたものだが、まずはこれについて意見を伺いたい。
- 小島委員 全体の事にも関わるが、様々な意見をまとめて中間報告としたということでやむを得ない部分もあるが、項目立てが十分にできていない。「今後10年間の事業計画」として11項目が列挙されているが、展示に関わる事、資料に関わる事、調査研究に関わる事、情報発信に関わる事等の大項目を設け、各々について現状と課題、事業計画というように対応させて、現下の問題に対処するというようにまとめた方がよい。報告書の書き方としてそこは整理する必要がある。
- 萩原委員長 私もどのように結果を出すべきか考えていたところである。現状と課題についてはこれまでの協議会でだいぶ検討されているところであり、基本方針についてもこれまで説明されてきたところである。事業計画の中で何か絞れるものがあるか。
- 広田委員 館内を見学したが現状の状態でもできる事がたくさんあると改めて感じた。この中で我々が審議すべき郷土博物館のあり方について基本的に10年後を目途にしてどうあるべきかを検討することが目的と考えている。小島委員が述べられたように今回の事業計画は随分と網羅的となり、内容も至極もったもなものになっているが、実際に長中期的計画を立てる時は、予算の額が前提としてあり、それに対する優先順位が設定されて、個々の重点項目が決まる。そういうような話し合いになっていくのではないだろうか。その上での長中期計画であるべきと感じた。
- 萩原委員長 説明が多岐に渡っているので、どの点を掘り下げるか決めるのが難しい。  
小島委員 いくつか検討の方向性があると思う。例えば、報告書1頁の「郷土博物館の現状と課題」と、9頁の2「郷土博物館が果たしてきた役割」が対応すると思われるが、後の鈴木委員の提言にも出てくると思われるが、「ミッション」が一番大事だと思う。何をやる博物館であると言うことがはっきり決まっていなくて、当然、今後の計画も出てこないと思うので、その部分は一度しっかりと各委員で共有しておく必要がある。それが後の「基本方針」にも関わってくる。まずは、ミッションの確認と再定義が必要ではないか。
- 鈴木委員 ミッションについては前回私が意見を述べたので、その内容については各委員も了承されていると思う。「3つの基本方針」が報告書に提示されているが、これらとそれぞれの項目がどう対応しているかが分かりづらいと感じた。
- 広田委員 ミッションと施設の理念はとても重要と思うが、前提条件をまず整理してほしい。この施設を免震構造にしたと聞いたが、既存の施設を活用してどの範囲で協議するのか。その前提条件が明確でないことに気が付いた。どの範囲の内容について予算を含めてどのように協議していくのか。その上

で、理念であり施設のビジョンが出てくるのではないかと。議論が空論にならないようにしなければならない。

小島委員  
広田委員  
柳谷委員

この協議会のミッションということか。

そうである。

私は今回初めて参加するが、自分の役割は、学校の観点から意見を言うことにあるのだろうと考えている。緊縮予算の中、郷土博物館として色々と事業を実施されていると思われるが、市長が千葉氏を都市アイデンティティ確立のための大きな柱に位置付けている中、その事業の実施のためにどれほどの予算が館に付いているのか聞きたい。また、学校教育のカリキュラムの中で、子ども達が郷土博物館に興味を持って勉強してもらうにはどうすればいいのか、子供たちが館内で千葉市について学んでいくことが、都市アイデンティティの確立にどうつながるかということについて意見を述べようと考えていたが、その前に、予算の枠組みがどうなっているか、どの内容に絞って議論していくか等を提示していただかないと、各委員が意見を言いつばなしで終わってしまうのではないかとと思われる。

丸島館長

昨年度諮問させていただいた時は、広田委員のいう全体的な予算について議論するのではなく、もっと広い視点で、予算を考えずに、博物館のあるべき姿を議論していただきたいということであったと思う。我々としては、いただいた意見に基づいて、千葉市の長期計画や来年度予算に反映させていく方向を考えている。市役所は単年度予算であり、現在、3年の実施計画を立てている段階であり3年後の予算も決まっていなため、5年先の予算と言われてもこの場で各委員にお知らせすることはできない。むしろ、この場で館のあるべき姿についてある程度決めていただき、その実現のため我々が実施計画課・予算化していく方法を取るとするのが役所の基本的な姿である。

広田委員

館長の指摘ももっともであるが、本日、郷土博物館を見て、システムができていないと率直に感じた。確かに社会普及活動は、博物館も美術館も近年どんどん大きくなっている分野であるが、その前にしなければならないのは今回たくさんあると思う。例えば、4階には、昭和初期の住宅の原寸模型があるが、その生活スタイルは別に千葉に限られたものではなく、ここで展示する意義を全く感じなかった。また、一番の問題は、動線がはっきりしていないことである。もっと整理すべき事があり、その上での長中期計画だと思われる。具体的にこの3年間でこの施設をよくするためにどうすればいいのかというような議論はたくさんできると思うが、博物館のあるべき理想を語れというと、そういう教育普及活動も必要だということになってしまう。千葉氏が展示の中心となっているが、千葉の郷土博物館として千葉氏の占める位置付けがこれほど大きくていいのかという思いもある。千葉氏の周辺のもっと興味深い歴史的事実もたくさん展示されているのに、千葉氏に絞ってしまうから展示自体が先細りしてしまうのではないかと。そういうような議論が重要だと考えている。進め方としてあるべ

き姿の中長期的10年計画を語るとする時の前提条件をもう少し整理していただいた方がよい

萩原委員長

私は千葉で生まれ育ちながらこの地がいったいどういった場所なのか鮮明に認識できていない。現在、ハーモニープラザで郷土史講座を担当しているため、千葉市に関する資料を集めているが、千葉氏の事はたくさんあるのに、それ以外の事がほとんど見つからない。例えば、江戸期や明治期、市制施行された大正期の千葉市がどうであったかが郷土博物館ではほとんど展示されてない。そのあたりをもう少し掘り下げていきたい。確かに千葉氏に特化しすぎているきらいがある。去年が開府890年ということもあるが、そういう感想を持った。

鈴木委員

千葉市は千葉氏をアイデンティティの一つとして前面に挙げたのだろうが、それが少々強調されすぎているとの指摘は同感だ。郷土博物館というのであればもう少し広くテーマを選ぶこともできる。特別展のリストを見ても、江戸時代がたまにあるくらいで、戦国時代や妙見信仰等の古い話が多いが、古い話が今の市民の生活にどれだけリンクするのか、歴史に関心のある一定の層を除いた一般的な市民には少々難しい。個人的関心であるが、例えば食べ物にしぼってもいいのではないかと。多分、千葉氏にも独特の食文化があったのでないか。いまにも伝わっている面もあるのかと。そういう風に少し視点を変えてみてもいいのかと。食べ物をテーマに展示をしている館もたくさんあり参考になると思われる。そうすれば来館者の層も変わってくる。

小島委員

千葉氏の展示の比重が大きすぎるとする各委員の指摘については、私も同感である。私の意見も多く報告書に取り込んでもらっているが、そこが一番問題である。例えば、9ページの「郷土博物館が果たしてきた役割」とか、12ページの「基本方針の策定にあたって」等に活かしてもらっているが、この館で扱う展示は、①が「千葉市域の歴史について学べる館」、これは歴史と文化にすれば良かったかと思うが、②で「千葉氏の歴史について学べる館」ということで、このうちどちらが主であるかと言うと、当然①になると思うが、実査には②の方が圧倒的に主になっている。市の歴史と文化を学ぶ時に郷土博物館がどんな所であるかが見えてこない。今日も展示を見てみたが、千葉市域の地図が一つもない。全体が分かるものという点で、文化財マップがかろうじてあるだけで、千葉市がどんな所であるか分かる地図すらない。前回にジオラマ製作を提案したが、この部分の希薄さが一番問題だと思う。千葉氏も中世のかなり有力な武士団であり、全国に広がっていることもあり、千葉氏調査研究の拠点として千葉氏の事はここに来たら良く分かるということは博物館としてのアイデンティティ、特徴ある博物館として館の存在価値となる。現在、千葉大学の中世史研究体制が大分弱体化している中、郷土博物館がしっかり資料を蓄積し調査研究し発信しないと千葉氏研究が細ってしまう。郷土博物館はこれまで千葉氏研究の成果を蓄積してきたので、この部分はしっかりと継続してほしいが、やは

り市域の歴史と文化の展示が不十分だということが弱点になっている。近世の歴史がないというのは普通の郷土博物館では考えられない。現在の生活というのは基本的に近世のものをベースにできているので、そこを飛ばしてしまうといくら中世をやっても現在に結びつかず、今の我々が住んでいるこの地域がどういうものか非常にわかりにくいものになってしまう。ここが私の思う一番改善すべき重点である。千葉氏をやっている現在の歴史に結びつかないのは一つの不幸である。千葉氏が中世で滅亡してしまい近世大名として残らなかったのが、中世の歴史と現在我々の住んでいる世界が結び付きにくく、その部分を何とか埋めていかないといけない。地方の中核都市は江戸時代の城下町が元になっているものが多く、城を中心とした城下町と言う構造が分かりやすいなっているので、自分が住んでいる地区は、当時の武家屋敷や町人町だとすぐに分かる。ところが千葉市はそれが非常にわかりにくく、自分が住んでいるところが町の中でどういう所であったのかが非常にイメージしにくい。近世の千葉の核は港なのだから、それを基盤として発展した町だということを何らかのかたちで示していかないと、空間的なイメージがいつまでたっても掴めないし、これが千葉市のアイデンティティの薄さにもつながっている。そのところが何故か今までほとんど無視されてきた。そこを明確に意識して、千葉氏の歴史に取り組んでもなかなか現在の都市の状況に結びつきにくいことをはっきりさせ、千葉氏の展示を止めろとは言わないが、それより千葉市域の歴史と文化を館の展示の主としてほしい。残念ながら、このことは重点項目にはほとんど反映されていないが、その辺りについて何が課題で何をすべきかもう一度整理してほしい。

広田委員

全国的に、地域の郷土博物館の役割にはある程度一定のものがあり、その中で千葉の特徴をどうやって出していくかが重要と考える。千葉氏が出てくるのは必要な事であるが、千葉氏の歴史から現代につながる流れ、建築、人脈、文化、産業等があればそれも示すべきである。まとめ方であるが、理念的な事よりも千葉市立の郷土博物館の環境整備ということが一つ必要と思う。今回の報告でも出ているが、サイン計画、案内図、アプローチの問題等の基本的な物的状況を整理するなどやるべき事はたくさんあると思われる。もうひとつは、この館における展示内容とインターネット等のWebやビデオを使った展示内容の方法等、この館で出来る範囲の展示内容と方法を、ヒエラルキーを持って考えることが二つ目に必要と考える。三つ目は、この博物館としての活動をどう進めていくかということである。免震工事実施時期に自分が館にいたら、免震構造よりも展示に予算を使うように主張したと思う。それほど今に着手すべき事がたくさんある。是非その点について、現実的・具体性を持った改革ができるような話し合いの場になる必要があると感じる。

柳谷委員

私をはじめ千葉市に来た時、歴史的なものを含めてあまり特徴のない所だと感じた。小学校で千葉市が歴史に表れる時代として学ぶのは中世の千

葉氏であり、小学生が市の歴史を学ぶという点で、郷土博物館に来ると千葉氏の分かりやすい展示と解説があるのは小学校の教員としてありがたいのでそこは引き続き充実してほしい。その他、千葉市域の歴史、例えば江戸時代の藩領や旗本領の状況等は私も興味がありもっと知りたいと思う。ただ、市域の歴史について館が展示したいと考えても、実際に資料が集まらなければ興味ある展示はできないだろう。そこで、市内の文化財、古文書などの資料件数、郷土博物館の所蔵数と調査件数等の資料の収集状況を教えてほしい。

- 小川副館長 文化財については開館当時から定期的に収集を進めてきたが、近年は、寄託等もあまり集まらず、古文書の調査も進んでいない。引き続き必要なものについては調査収拾に努めていきたい。
- 萩原委員長 明治初期の千葉は役人と医者の町だった。明治中期以降は軍人がそれに加わった。それが戦前の千葉の特徴である。
- 広田委員 当時の地図はないのか。
- 鈴木委員 明治時代のものであれば意識をすれば収集できると思うが。
- 萩原委員長 市域も拡大している。人口についても、戦後に、昭和38年に約30万人だったが、現在100万弱で3倍以上になっている。その間に何があったかについて語れる資料がない。
- 小川副館長 近世の歴史を含めて市域拡大の流れについて詳しく展示説明している資料は確かでない。
- 柳谷委員 どれだけそういった情報や遺産があって、それをどう活用するという事である。
- 広田委員 正しい歴史の流れを発信するのが郷土博物館の役割ではないか。
- 小川副館長 断片的な展示というものが多いとは言えると思う。
- 広田委員 私が感じたことだが、5階に千葉市の駅の写真と地図があるが、明治期と昭和期と現代のものを並べれば、今自分が住んでいるところが昔こうだったかと来館者が興味を持てる。それがジオラマになるとこういうふうに発展していったのかとより分かりやすくなる。市出身の有名人物と産業の発露が分かることが博物館の本来の役割ではなく、それを歴史的にヒエラルキーを持ってつなげていくのが、あるべき姿・あり方と思う。現状、展示が断片的になっているが、そういうことをここで議論すべきではないか。本来の博物館をこういうふうにして言ったらどうかということを、具体的に今この空間を使ってどういう風に展示が可能なのかということを議論していく方が良いのではないか。
- 小島委員 もっともな意見だが、それは展示構想委員会のような別の会で協議すべき問題である。ここは、もう少し基礎となる「館として何をすべきか」を決める場である。もちろんアイデアは出しているが、何階のどこに何の資料を入れるかということまで本協議会で詰めるものではない。あうまでも館のあるべき方向性を示すための場である。
- 広田委員 それではもう少しこの協議会の役割を説明してほしい。

小川副館長　　まずは、あり方と言う形で今後の方向性を検討してほしい。その中で展示の改修が大きなテーマになってくると思われる。それについてご意見をいただいで内容を取りまとめていきたいと思う。

鈴木委員　　確認だが、10年程度の中長期計画をこれから立てるということか。

小川副館長　　そうである。計画の基になるあり方をこの協議会で検討してほしい。

鈴木委員　　予算要求はまた別途ということか。

小川副館長　　そうである。

小島委員　　ここで非常に有効な案が出て、これでやろうということになれば予算要求していくということである。

鈴木委員　　そうするとやはり展示の構成や歴史のストーリーの問題があるようですので、これらを重点として協議させてほしい。

小川副館長　　実際にその辺の意見をいただいでそれを実現化するのにあり方というか、ミッションなりビジョンが今まであまり固まっていなかったところもあるので、それを整理したいというのが館の意図である。

小島委員　　結局、事業計画に何を書き込むかということが具体的な予算計画につながる。先ほど述べたように、11項目の事業計画が脈絡なく単発で記載されているのもう少し項目を整理してほしい。展示の無い博物館などはないため展示が一番はじめに来てもいいと思うが、「常設展・企画展の活性化」として5番目に位置しかつあまり具体的な事は書いていない。やはり展示という大項目を作って、この中に個々の内容を載せていくような書き方にした方が良く思う。私の意見もいくつか取り入れてもらっているが、「近世の展示を作る」や「市域の全体像が見えるようにする」は採用されていない。そういう具体的な事を書いてもらいたい。当然、展示を重点項目に入れるのが適当である。前回もジオラマ製作の話が出たが、10年計画であれば、ジオラマを盛り込むかは別にして、計画の実現化に関する予算要求の根拠となる書き方をしていけないとおそらく金がないから不可ということで10年が過ぎてしまう。やはり、展示の抜本的な更新が求められているということはしっかりと記載してもらいたい。その背景として、市域の歴史と文化など郷土に対する理解を考える上で、現状の博物館の展示内容が非常に不十分であり、市のアイデンティティ確立の障害になっているためその改善に取り組むべきであると計画に記載した方が予算獲得の面でも効果的だろう。郷土博物館は、政令市の博物館としては異常に規模が小さい。他市との人口比と博物館予算額との比較を行えばより説得力が増すと思うが、横浜、仙台、名古屋、大阪、福岡各市の歴史博物館等、例えば、堺などは立場的に近いが、どこも、郷土博物館と比較すると規模的に人員的にも数倍であり、また集客力も優れている。

広田委員　　私もそう考えていて、そのための提言をする場所として捉えていた。そうではなくてこの施設ありきということか。

小川副館長　　そういうことではない。

丸島館長　　もちろんすぐに実現できる問題ではないが、施設の改修も含めて協議して

いただきたい。

小島委員

現実問題としては難しいということになる。

広田委員

この規模の施設で充実させることはたくさんあるので、ここでできる事をやるのが重要だ。例えば、10年先程度の期間であればその期間に必要な事に着手すべきで、規模の増加については今日拝見した限りでは時期尚早かと思われる。まずアプローチをどうするか、1回に入ってきた時にアクセサビリティが非常に悪いと感じた。後、この協議会で論ずべきことではないかもしれないが、こういう内容の展示をすべきだということを提案していかなければならない。本来、事業計画の11項目のほとんどに展示に関わる内容が来るのではないかとの気がする。

丸島館長

広田委員に質問したいのだが、委員は、建物のハード面に大きく手を入れずに展示替えやアプローチ、動線変更などができるとお考えか。

広田委員

十分可能である。

丸島館長

要は、大規模改修をするのであれば、ここはできる限りの展示替えに留めて、近くに別の博物館等を建設してそちらで報告書に記載された内容のものを実施するという予定の立て方もある。ただし、大規模改修は多大な予算がかかる等ハードルが高いので、ある程度の小規模改修、今の状況でこれぐらいならば許される範囲内で展示物の改修ができるのかというのが我々の疑問だったのだが。

広田委員

現状の博物館の展示では20%程度しか活用されていないと感じた。残り80%で必要なのは、近代、江戸期以降の展示だと思うが、それを1階からでも5階からでも開始してもいいのではなく、ちゃんと脈絡を作って展示することが必要である。要は、既存の展示が分かりにくいということである。1階にある年表の表現の記載方法も不十分で、千葉市の流れの中と全体の展示の中で年表があるべきと思う。この80%を脈絡づけるだけで十分この館内の展示だけで良いものになると感じた。その中で、教育普及活動というのは展示ができてからの問題であって、その前にすべきことがたくさんあると感じた。

## 議事（2）委員からの提言及び議事（3）その他

< 委員提言 >

鈴木委員から「博物館経営論に基づくこれからの博物館のあり方」をテーマにした提言を受けた。

< 質疑応答等 >

萩原委員長

鈴木委員の提言について質問、意見等はあるか。

広田委員

博物館経営論というタイトル、考え方は非常に目新しい。一般的には運営論と言う方が普通と思うが、博物館法に準拠した博物館の運営方法方針というものが本来あって、それに依らない必要性を模索すべきではないかということか。本来、博物館法に設置目的も活動内容も記載されているが、そこからは離れて一つの社会貢献施設、新しい形の公共施設という位



- 置付けが博物館には必要であるというお考えか。
- 鈴木委員 おそらく、博物館法に記載されている内容は、博物館の施設内容、学芸員配置規定や、何をしないといけないのかといったことであると思うが。
- 広田委員 何のために博物館を作るべきかの設置目的は第1条にある。
- 鈴木委員 それを運営するためにどうしたらいいか。それを実現化するためにやるべきことは何かというのが本提言の主題である。
- 広田委員 運営基準は博物館法の中にある。そうであれば、法律との関係をどのように整合化するのか。
- 鈴木委員 それについて考えたことはなかった。経営組織として経営が必要であるという考え方が現在ある。博物館にも経営的な考え方を取り入れて経営しなければうまく回らないと考えている。
- 広田委員 法律で保護されている施設は3つあり、公民館、図書館、博物館である。その中で公民館は必要でない、図書館はほとんど複合施設になっており、駅ナカにあった方がいいのではという新たなニーズがあり、公民館も社会教育施設としての教育施設ではなくて、住民にとってコミュニティセンターでいいという意見もある中で、博物館にもそういう考えがあるのではないと思ひ提言を聞いていた。
- 鈴木委員 提言の最後で述べたが、博物館には地域にとって幅広い役割があることが現在かなり強く言われている。資料の収集保存だけの施設ではない。法律があつて基準が決まっているということだけでは、人との関わり、来館者への対応もある中で法の基準だけではなかなか動かないと考えている。先程の話に出たアプローチでも、展示の出し方でもそういったことを総合的に考えていくために、どういう経営・運営の仕方が必要だということを経営論という言い方で考えてみようと思っている。
- 小島委員 博物館の経営という視点からということで、最後の箇所は、顧客がいるから経営になるということだと思うが、マーケティングが非常に大事だという話をされて、博物館にとっての顧客が誰かという問題はなかなか難しいものだと再認識した。博物館がそれを一体どのように認識・設定していくか。その辺りはどのようにしたらいいと考えるのか。
- 鈴木委員 単に来館者と言う意味だけではなくて、より広い意味で捉えることも可能である。例えば、ドラッカーの著書を基にした書籍「もしドラ」にも、主人公が顧客とはいったい誰かと考えるとシーンがある。これは野球部の話であったが、野球部の顧客とは観客なのか。実はそうではなくて、地域の応援者も学校も全国の高校野球ファンも顧客であり、さらに突き詰めると野球部員自身も顧客である。つまり自分たちが楽しみながらある種の達成感や完了感もあるが、そういったことを求めてやる意識に主人公は到達し、野球部員に対してマーケティングをかけていく。博物館の場合には、顧客には展示に携わる職員自身も入ってくるということもある。それを考えていくことはミッションを考えることにもなる。
- 小島委員 先程のあり方の中間報告に戻るが、そこがうまくできていないのかなと思

う。つまり、ミッションがしっかりできていない、顧客がきちんと見えていない、そこを是非、鈴木委員から提言いただきたい。具体的にいうと、11頁に「目指す博物館像（ビジョン）」とあるが、そこで市民・利用者がと言ってしまう。市民・利用者の定義がないので、ここをもう少し分類してそれぞれの顧客に対してどのように対応するのか整理してほしい。例えば、学校教育でどう使うのかという課題があるが、一般に、市民・利用者と言ってしまうと、学校の利用者が見えなくなってしまう、地域住民にとって郷土博物館が見えない。最近インバウンドと良くいわれるが、外から来た来訪者に対してどうか。歴史愛好家、千葉氏愛好家についてどうか。ここで言う顧客の整理が非常に重要である。そこは最初の方で少し整理していただいて、それぞれに対してこういう事を行うとまとめた方がよい。

- 萩原委員長 他に質問等無いか。それでは意見等が無いのでここまでとする。その他について事務局から伝達事項あるか。
- 小川副館長 熱心な協議ありがとうございました。次回の博物館協議会の日程だが、委員長と協議して今後の進め方についてはまた改めて通知したい。できれば早いうちに本日の資料を修正して委員に見ていただこうと考えている。
- 萩原委員長 その他に意見がないか。
- 小島委員 概ね次回は何頃開催予定か。
- 小川副館長 最終的には1月ぐらいと考えているが、その前に協議会を開催できるかどうかは館内で協議してお知らせしたい。

萩原委員長の挨拶により、平成29年度第1回千葉市立博物館協議会を終了した。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館  
TEL 043-222-8231